



いにしへの映画つれづれ⑦

「先生のお気に入り」 キング晩年の佳作

千葉豹一郎

ハリウッドに“キング”として長く君臨したクラーク・ゲーブルも、日本では同い年で終生のライバルだったゲーリー・クーパーの人気に遠く及ばなかった。

代表作の「風と共に去りぬ」(39)のレット・バトラー同様のパワーで押しまくる強引さは、本国では受けても慎み深い日本人にはいまひとつ受け入れ難かった。

トレードマークの口髭に自信満々のにやけた表情を、嫌味に感じるという向きも少なくなかったようだ。特に戦後は作品的に恵まれなかったこともあって、昔の名前で出ていますの観があった。

ところが、晩年になってコメディに意外な才を見せた。それが今回の「先生のお気に入り」(58)である。相手役は人気歌手から映画にも出演するようになったドリス・

デイで、今もCM等でも使われる軽快な主題歌も唄い代表歌のひとつにもなった。

日本でも「いつでも夢を」「上を向いて歩こう」等ヒット歌謡曲から映画が作られることがあったが、本作も時期的に見て歌のヒットを受けて制作されたともいわれる。

しかし、取って付けたような急ごしらえな感じはまったくなく、大変上質なコメディである。昔から都会的な作風で知られたパラマウント社ならではの洗練された大人のロマンスが、まだ隆盛を誇っていた新聞を軸に展開される。

台頭してきたテレビに対抗すべくパラマウントが開発したヴィスタヴィジョン（アナモフィックレンズで湾曲させて撮影した画面を上映時に広げる20世紀フォックスのシネマスコープが、左右の一部のピント

が甘くなるのに対し、2コマ分を1コマとして撮影するので鮮明な画像が得られる）で撮られていて、モノクロながら大変画面が美しい。

主演のふたりの他、「ひとりぼっちの青春」(69)でアカデミー助演賞を得たギグ・ヤングがゲーブルと恋のさや当てを演じて同賞の2度目の候補になり、脚本賞の候補にもなった。

主題歌が有名な割にはあまり知られておらず、ゲーブルの出演作としても語られることが少ないのは何とも惜しい。テレビ放映もカット版が半世紀以上に12チャンネルから放送され、1、2度リピートされたきりだ。

ニューヨークの「イブニング・クロニクル」の社会部長ジム・ギャノン（ゲーブル）



「先生のお気に入り」のロードショー時のパンフ



2番館のパンフ

いにしへの映画つれづれ⑥「先生のお気に入り」キング晩年の佳作

が、編集局長から市立大の夜学のジャーナリズム講座で講演するよう命じられる。学歴もなく腕一本でのし上がってきたギャノンは、経験だけを重視し学問やインテリを毛嫌いしていた。早速、担当のE・R・ストーン教授に非礼な手紙を書いて断ったところ、編集局長に知れて講座へ行くよう厳命される。

やむなく出かけた教室に入ってきたのはブロンドの美人（デイ）で、Eはエリカの略だった。例の手紙を読み上げながら、人物像まで言い当ててこき下ろされたものだから、名乗るに名乗れず受講生になりすましてその場を切り抜けた。

ギャノンは彼女の鼻を明かすつもりで偽名を使ってその後も受講生として出かけ、課題もさらりとこなして教授を驚かせ“先生のお気に入り”となる。

有望な生徒を見つけて喜ぶエリカをからかう気も失せて彼女のことが頭から離れなくなり、いろいろ調べるうちヒューゴー・パイン（ヤング）という心理学の教授と親しいことが判った。

著書を12冊も出版しているので年配の男だと思ったら、著書にあった写真は若いハンサム。ギャノンはガールフレンドのストリッパーがいるナイトクラブにエリカを連れて偶然入ってきたパインに、いろんな話題を振ってやり込めようとしたが、博識な彼にまったく歯が立たなかった。

ボーイにチップを弾んでパインの酒だけ強くさせ、酔いつぶれた彼をエリカと送り届けて彼女の家に寄ったギャノンは、彼女が新聞界の巨人といわれた地方の有力紙の主筆の遺児だと知った。

その「ユーレカ・センチネル」の社説は世界中の新聞人から注目されるほど有名で、エリカは亡父の遺志を継ごうと必死だったのだ。パインとはただの友人だという彼女の言も、ギャノンを安心させた。翌日、社長から旧友に引き合わせると紹介されたのは、エリカだった。

ギャノンの正体を知った彼女が怒って立ち去ったのも、無理からぬことだった。困り果てたギャノンは二日酔いで寝込んでいるパインを訪ね、友人のことなんだがと前置きしてアドバイスを求めた。

パインはギャノンのことだと初めからお見通しで、最近エリカが話すのはお気に入りの生徒のことばかりだと告げ、ギャノンの人物像を吹き込んだのは自分だと慰めた。ギャノンもパインを酔いつぶしたからくりを打ち明け、パインも同じ手を使ったもののチップをけちったのが命取りだったと笑い合った。

しかし、「ユーレカ・センチネル」は社説以外は古臭い新聞だとの持論を述べたのを、やって来たエリカに聞かれてしまう。またも立腹したエリカは、過去の記事を読み返しギャノンの指摘が正しいことを悟った。エリカは新聞社を訪ね、ギャノンに詫びてあらためて講師を依頼した。彼女を追ってギャノンが乗り込んだエレベーターは数分間動かなかった…。

キングと呼ばれたゲートルが余裕と貫禄で、実に生き生き楽しそうに演じていて心底楽しめる思えば、ゲートルがアカデミー主演賞を得た「或る夜の出来事」(34)もロマンティック・コメディで、もともとこの分野とは縁が深かった。

大メジャーのMGMの専属として20年以上に渡って活躍したが、当初から会社ともめることが多く、お灸をすえるために格下のコロンビアに貸し出された「或る夜」でアカデミー賞を得たのは怪我の功名だった。以後はトップスターとして君臨し、これまた他社の「風と共に去りぬ」で不動の

地位を獲得する。同年にはパラマウントのトップスター、キャロル・ロンバードと3度目の結婚をしたが、3年後に彼女が飛行機事故死。

ゲートルが陸軍航空隊に志願し進んで危険な任務に就いたのは悲しみを忘れるためだったといわれ、ふたりの悲恋は「面影」(76)に映画化もされた。

復員後は往年の勢いを失い長く在籍したMGMも離れたが、その際心を込めて挨拶する者が一人もいなかったそうで威張り過ぎたのだろう。

しかし、「一獲千金を夢見る男」(55)の香港口ケの途中で日本へ立ち寄った折は大歓迎を受け、いまだに日本でこんなに人気があるのは「風と共に去りぬ」のお陰だろうと謙虚に語った。

この時、記者と快く写真撮影に応じて大スターらしく振る舞い、あまりゲートルを好きではなかった記者を感激させた。

ちなみに、この記者は後に翻訳家に転じた「刑事コロンボ」で有名な額田やえ子氏である。「先生」の好評を受けて再び人気を盛り返したゲートルは、「僕らご免だ」(59)やソフィア・ローレン共演の「ナポリ湾」(60)と立て続けにコメディに出演し、モンローと共演したシリアスな「荒馬と女」(61)の撮影を終えた直後に急死した。

5番目の妻との間に初めての子供が生まれたのは、それから数か月後のことだった。



大変珍しい「先生のお気に入り」のプレスシート。

いにしへの映画つれづれ⑥「先生のお気に入り」キング晩年の佳作

ゲーブルの遺体はロンバードの隣に埋葬された。

ふたりが新婚旅行で泊まった部屋が今でもあり、時折衣ずれや楽しそうな話し声も聞こえてくるそうだ。

「センチメンタル・ジャーニー」の大ヒットでトップ歌手となったデイは映画にも出始め、50年代の中頃までは主にミュージカル系に出演し、ハスキーな歌声とアメリカ女性らしい明るく親しみやすい個性で人気を得た。

以後はこれらと並行していたサスペンスで活躍し、ヒッチコックの「知りすぎていた男」(56)の劇中で唄った「ケ・セラ・セラ」はアカデミー主題歌賞に輝き、代表歌のひとつにもなって現在もCM等で歌い継がれている。主題歌も唄った「影なき恐怖」(56)や「誰かが狙っている」(60)も好評で、この分野での評価も高い。

本作のようなロマンティック・コメディも得意で、アカデミー主演賞の候補にもなった「夜を楽しく」(59)や「恋人よ帰れ」(61)「ミンクの手ざわり」(62)等で60年

代前半に一世を風靡した。

「サウンド・オブ・ミュージック」(65)も当初はデイの主演、ウィリアム・ワイラー監督の予定だった。また、「卒業」(67)のダスティン・ホフマンを誘惑するミセス・ロビンソン役を最初に振られたのも彼女だった。しかし、自分のような昔かたぎ女にはふさわしくないと断っている。

「ニューヨーク大停電」(68)を最後に映画を退いたのは、3番目の夫が死去したためといわれるが、ハリウッドばかりか世界中を震撼させたシャロン・テート惨殺事件も関係しているのではないと思う。すなわち、主犯のチャールズ・マンソンらが狙ったのは、デイの一人息子テリー・メルチャーだったのだ。

マンソンはレコード・ディレクターをしているテリーが自作の曲をメジャーデビューさせなかったことを恨み、彼をターゲットに狙っていた。

しかし、テリーはすでに引越越し、テートと夫のロマン・ポランスキー監督に貸し出されていたため、不運にも身代わりともい

える被害に遭ってしまった。

母親であるデイは、テートも含め4人が惨殺されたこの事件に大変なショックを受けたのはいうまでもなく、アメリカン・ニューシネマの台頭で激変した映画界にも見切りをつけたのだろう。

68年にスタートした「ケ・セラ・セラ」で始まるテレビの「ママは太陽」は、夫の残した莫大な借金返済のためともいわれるが、健全、家庭的なイメージを大事にした彼女にはふさわしいホーム・コメディで73年まで続いた。

日本でも初期分がNHKで放送され、吹き替えを担当したペギー葉山が本人に会っている。すごく大きい人だったそうで、互いに歌手同士ということもあって意気投合したという。

犬好きで以後は動物愛護運動に熱心に取り組んで動物保護財団を設立し、歌手としての活動は続けて87歳の時に出したアルバムがトップ10入りし徐々に話題になった。

全米で最も裕福な女性の一人としても知



「荒馬と女」のゲーブルとモンロー。共にこれが遺作となった。左はモンゴメリー・クリフト。



「知りすぎていた男」のデイとジェームス・スチュアート。

いにしへの映画つれづれ⑥「先生のお気に入り」キング晩年の佳作

られ、19年に97歳で没するまで比較的健康な余生を過ごした。だが、夫には借金ばかりか財産も使い込まれる等のトラブルに見舞われ、一人息子のテリーにも先立たれた。

最晩年は丹精を込めた庭は荒れ放題となり、唯一の孫もあまり寄りつかなくなって死去も財団によって発表された。ポール・マッカートニーら世界中のアーティストの尊敬を集めた偉大な歌手の最期としてはちょっと寂しい。

なお、デイ本人はドリス・デイという芸名（ファーストネームは本名）も、代表歌の「ケ・セラ・セラ」もあまり好きではなかったという。

いい人過ぎて気の毒なバイン教授を演じたギグ・ヤングは、ワーナー・ブラザーズで二枚目として売り出されたがうまくいかず、沿岸警備隊で軍務に就いた戦後に舞台やテレビを経て再デビュー。

主役もあるが主に一番手のわき役として活躍し、主人公の友人や「先生」のような振られ役を得意とした。

デイとは「愛のトンネル」(58)や「ミン

クの手ざわり」でも共演し、くせのない長身のハンサムには軽妙な二枚目という呼称がよく似合った。

演技力も確かで、ジェームス・キャグニーの「6年目の誘惑」(51未)と「先生」でアカデミー助演賞の候補となり、前述のように3度目の正直の「ひとりぼっちの青春」で受賞し、テレビの「泥棒貴族（ザ・ローグス）」も好評だった。しかし、結婚間もない2度目の妻が病死したことからアルコール依存症となり、「奥様は魔女」のエリザベス・モンゴメリーと3度目の結婚をするも、それが原因で離婚。

ブルース・リーの急死で未完となっていた「死亡遊戯」(78)の追加撮影で訪れた香港で知り合った、30歳以上も年下のドイツ人女性と79年に5度目の結婚をした。

ところが、結婚からわずか3週間で新妻を射殺し、自らも命を絶った。原因は不明で、自宅から数丁の拳銃と数百発の弾丸が発見され、ショッキングな最期とイメージとのギャップが世間を驚かせた。

ヤングは生前のインタビューで、「外見か

らは判断出来ない。人は不安を覆い隠すために人生を費やしているのだから」と意味深なことを述べていた。本当に人は見かけによらないものだ。

■「先生のお気に入り」1958年モノクロ Teacher's Pet

監督 ジョージ・シートン

出演 クラーク・ゲーブル
ドリス・デイ
ギグ・ヤング

著者紹介

千葉豹一郎

作家・評論家。著書に「法律社会の歩き方」(丸善)「スクリーンを横切った猫たち」(ワイズ出版)(電子版はアドレナライズ)「昭和30年代の備忘録(電子版)」(ユニワールド)「猫と映画人(電子版)」(アドレナライズ)等の他、「東京新聞」「ミステリマガジン」(早川書房)「猫生活」(緑書房)等をはじめ連載も多数。独特の切り口で草創期からの外画ドラマの研究や紹介にも力を入れている。



「影なき恐怖」のデイ。

ケーシー先生や力山に憧れ、アトムや鉄人に熱中し、カラーテレビが、クーラーが、ハンバーガーショップが身近に押し寄せてきた夢いっはいの少年時代。一方で、周りを見回せば捨てられたガム、連続する鉄道大事故、暴走タクシー。牛の銘柄の馬肉100%コンビーフや怪しい溶けないアイスも売られ、食の安全はそっちのけ状態。「古き良き昭和」ばかりではない、リアルな日本の高度成長期を描いた軽快なエッセー。



付録ムービー	食	26. 種くマテル
テレビ・芸能	13. モナカカレーと「少年ジェット」	27. 集まった金銭のモデルガン
1. テレビの青春時代	14. アメリカカンドッグ事始め+レモネード	28. プラモデル熱中時代
2. 教科書だったアメリカのドラマ	15. ハンバーガー-開店史	社会・文化
3. プロレスと力山	16. スパゲティは珍める物?	29. ケネディの時代
4. 実写版「歌劇アトム」と「鉄人28号」	17. 緑のフトルミン	30. 外単家書記
5. コマンソの女王 橋トシエ	18. 巨艦子艦とお獅子殿のあつたころ	31. 国産車は総集巻?
車電	19. 和末ジョー-ス版書記	32. サンドイッチのような車の三角窓
6. 電気釜の裏うつ	20. 傑作! 噴水型ジュース自動機	33. デパートはワンダーランド!
7. カラーテレビ狂想曲	21. 10円アイスクリームが花盛り	34. 町の映画館
8. リモコンテレビが欲しい!	22. 消えたガムつれづれ	35. 折りたたみ式コップ
9. クーラーをつけたまま寝ると死ぬ?	ホビー	36. 月刊マンガ誌と付録
10. ボロロイイカメラ	23. 鉄の手裏剣	37. ベラベラのソノシート
11. 可愛いソフトカメラ	24. 2日弾とクラッカー	
12. 8ミリフィルム	25. 銀玉鉄砲の王道	

当書 DVD 版は、月刊 FDI 編集部にて
 本文：108 ページ / 映像：2分23秒 2012年9月 ミリアムワード(株) 発行
 価格：3,980円(税込)
 株式会社ユニワールド 東京都世田谷区松原 2-34-9
 TEL.03-5376-7233 FAX.03-5376-7246 info@uni-w.com